

「東京アートポイント計画」は、地域社会を担う
NPOとともにアートプロジェクトを展開することで、
無数の「アートポイント」を生み出す、
東京都とアーツカウンシル東京による事業です。

「東京アートポイント計画」の変遷

- 2006年12月 「東京芸術文化評議会」が設立される
オリンピック文化プログラムの検討開始
- 2008年4月 財団法人東京都歴史文化財団に、オリンピック文化プログラムを実施する組織として、「東京文化発信プロジェクト室」が設立
- 2009年4月 東京文化発信プロジェクト室にて、東京都の文化政策として提案された「千の見世」を事業化し、「東京アートポイント計画」として始動
- 2010年6月 東京アートポイント計画にてアートプロジェクトを実践する人々のためのリサーチプログラム「Tokyo Art Research Lab」が始動
- 2011年7月 東京アートポイント計画の手法を活用した東日本大震災の復興支援事業として「Art Support Tohoku-Tokyo」が始動
- 2014年3月 『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことば。の本』を発行
- 6月 Tokyo Art Research Labにて、人材育成を目的に「思考と技術と対話の学校」を開校
- 2015年4月 東京文化発信プロジェクト室が「アーツカウンシル東京」と組織統合され、「芸術文化創造・発信事業」のひとつになる
- 2016年4月 新規共催団体の公募を開始

東京アートポイント計画 共催事業一覧

※平成21年度～28年度事業より一部抜粋、終了事業も含む／各項目とも[]内は開催地域、下段は共催団体

- ▶ TERATOTERA [高円寺～国分寺地域]
一般社団法人Ongoing
- ▶ 小金井アートフル・アクション！[小金井市]
NPO法人アートフル・アクション、小金井市
- ▶ としまアートステーション構想 [豊島区]
一般社団法人オコロ、豊島区
- ▶ アートアクセスあだち 音まち千住の縁
[足立区]
東京藝術大学音楽学部・学院国際芸術創造研究科、NPO法人音まち計画、足立区
- ▶ 長島確のつくりかた研究所：
だれかのみたゆめ [都内各所]
一般社団法人ミクストメディア・プロダクト
- ▶ Art Bridge Institute [都内各所]
NPO法人Art Bridge Institute
- ▶ AKITEN [八王子市]
NPO法人AKITEN
- ▶ トッピングイースト [東東京地域]
NPO法人トッピングイースト
- ▶ TOKYO FABBERS [都内各所]
FabCafe LLP
- ▶ 三原色 [ミハライロ] [伊豆大島]
NPO法人kichi
- ▶ リライトプロジェクト [六本木地域ほか]
NPO法人インビジブル

[お問い合わせ]

アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28 九段ファーストプレイス8階
Tel:03-6256-8435 E-mail:info-ap@arts council-tokyo.jp
www.arts council-tokyo.jp

東京アートポイント計画 主催=東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

TOKYO ARTPOINT PROJECT



CULTURE & TOKYO

ARTS COUNCIL TOKYO

東京アートポイント計画は、
来たるべき社会に
応答するための活動です。

今から30年後の社会は、ケアを必要とする人がますます増えていることでしょう。また、人工知能が人間の脳を超えるかもしれない未来では、わたしたちは何を持ってアイデンティファイするのでしょうか。来たるべき社会への準備として日常生活における豊かさや居心地の良さ、そして生きる喜びを得るために「アートプロジェクト」が手段としてより有効性を増すのではないか、とわたしたちは考えています。

東京アートポイント計画で大事にしているのは、プロジェクトを起こすときのアプローチの丁寧さとプロセスです。プロジェクトが一過性のもので終わらず、継続していく仕組みを持つことを最大のテーマとし、NPOと連携しています。

アートプロジェクトのプロセスにおいては、さまざまな関係性や共同体が生まれます。同時に問題や矛盾も浮き彫りになりますが、これらを無理に解決しようとするのではなく、緩やかに包み込むマネジメントがなされたアートプロジェクトの展開を目指しています。大きな目標を掲げながらもまちと人と活動の多様性を内包したその先に、生活する人たちが日々の喜びを感じ、その土地を愛するシチズンシップを持つ社会が生まれるのではないかでしょうか。

東京をもっと魅力的なまちにしたい。わたしたちは「アートポイント」を無数に生み出す活動を続けながら、その考え方と方法を示していくたいと思っています。

東京アートポイント計画ディレクター

森司 [もり・つかさ]

東京に、
無数のアートポイントを

「これから」を
思い描くNPOと

あの手この手で
一緒に進めます。

街の未来を自分たちで
つくりませんか？



アートポイントって何？

「アートポイント」とは、アートプロジェクトが継続的に動いている場であり、その活動をつくる人々が集まる創造的な拠点のこと。単に場所を指しているのではありません。アーティスト、運営スタッフ、ボランティア、その場を楽しむ来訪者も含めて「アートポイント」を形成しています。東京をもっと魅力的な街にしたい。そんな想いから、2009年4月に東京アートポイント計画が始まりました。

人々が出会うしきみをつくる

多様なジャンルのアートプロジェクトを開することで、街の人々が関わる「余白」を広げます。その余白は、日常では出会うことのない人と人をつなぐでしょう。重視しているのは、地域の資源を活かし日々の営みに寄り添っているか。そして、社会の課題に気づきをもたらし新たな価値づくりに挑戦しているか、です。

多くの可能性を秘めたNPO

東京アートポイント計画は、アートプロジェクトごとに都内各地のNPO*と「共催」しています。アートポイントの中核にNPOというチームがあると、活動の担い手が集まりやすく、多様な人や情報といったネットワークが広がり、創造的な活動として続していくからです。人と人をつなぐアートポイントにとって、NPOは不可欠な存在です。

「事務局づくり」を支援

NPOが立ち上がり、プロジェクト運営が安定するまでは時間がかかるもの。そこで複数年にわたって、活動と組織の両面の成長を支援しています。特に重視しているのは、持続性のカギとなるアートプロジェクトの「事務局」体制づくり。はじめは小さなチームからのスタートでかいません。地域社会で活動を続けていきたい、そんな想いを持つチームを応援しています。

一緒に走るプログラムオフィサー

東京アートポイント計画の特徴は、プロジェクトごとに「プログラムオフィサー(PO)」と呼ばれるスタッフが伴走すること。POは、行政とアートプロジェクトの現場をつなぐプロフェッショナルです。内容をより充実させるため、体制づくりを支えるため、そして将来の展望を描くため、中間支援の立場からNPOメンバーと対話を重ね、アートプロジェクト実施へともに駆け抜けます。

多岐にわたるサポート

「より良いプログラムにするには?」「こんな事態になり困った」など、アートプロジェクトの現場では多くの悩みや課題に直面します。わたしたちがサポートしているのは事業費用だけではありません。POを通して情報、スキル、ネットワークの提供をしています。また、Tokyo Art Research Lab*と連携し、アートプロジェクトのため開発した新手法やツールの提供、現場を支える人材の育成と紹介も行っています。

人が街の文化をつくる

たくさんのモノが集まり、日夜イベントが開催され、多くの人が訪れる巨大都市「東京」。でも刺激的な街にただ身を任せるのはつまらない、東京の文化に主体的に関わり続けたい。そんな想いを抱く人とわたしちは考えています。なぜなら、いつの時代も街の文化をつくるのは、街に生きる人々だから。東京の文化、そして未来を一緒につくりませんか。

東京アートポイント計画へアクセス!

アートポイントへの参加方法はさまざま。まずは年間約100件開催されるアートプログラムに来てみませんか。もっと深く関わりたい人は、アートプロジェクトのボランティアとして参加するのもおすすめです。また、わたしたちとアートプロジェクトを共催するNPOも公募しています。詳しくはアーツカウンシル東京のウェブサイトでご確認ください。お待ちしています！

*NPO法人のほか、一般社団法人など非営利型の組織も含む

*「Tokyo Art Research Lab」はアーツカウンシル東京の人材育成事業。「思考と技術と対話の学校」と「研究・開発」の2つのプログラムを実施。成果とプログラム詳細はウェブサイト(www.tarl.jp)にて公開中。